



23春闘 **ペア一律10,000円獲得に向けたたかおう!** 第44回定期委員会・柳明則執行委員長あいさつ (抜粋) Part2

- 日勤教育における国府津運輸区の乗務員に一部経営幹部は、「会社に対する不満はない？不信感はない？」「乗務が終わればそれでいいと思っていた？委員会は何のためにあるの？」「会社の目指すべき方向と真逆の人間」「会社を好きになってよ。好きじゃないでしょ」「この時間を耐えれば終わると思ってないよね」と再教育とは何ら関係のないパワハラや人格否定まで行ないました。当該乗務員は自殺まで考えました。絶対に許せません！
- これは、JR東日本の安全風土と社会常識は崩壊の危機です！まさに、福知山線脱線事故前夜です！
- 熱海駅の事象は信号確認の怠りです。だとすれば、基本動作を徹底すべきです！必要であれば再教育もやるべきです！
- しかし、問題はなぜ信号確認を怠ったのか。なぜ、基本動作をしなかったのか。という原因を究明しなければなりません。その原因を究明し、その上で必要な対策は何か。背後要因、内的要因、外的要因、人的要因と掘り下げ、ハード面とソフト面での対策を講じていく。それが「責任追及から原因究明へ」という安全哲学であり、それは労使共通の課題です！
- 事故が起きたら、自らの足で現場を見て確認し、現場に行かなければ感じ得ない五感、現場ならではの空気・雰囲気を感じ取り、同種事故を再発させないように、現場管理者や指導員は当該乗務員に寄り添い対策を講ずる。それが会社のいう三現主義です！
- 今回の事象は氷山の一角です。そこに貫かれていることは、本人への責任追及を通じて、「変革」の名のもとに物言わぬ社員への意識変革という明確な意図です！

**JR東労組は、職場の組合員の立場と気持ちに寄り添い、組合員の安全と命を守り抜く！
それが、私たちの「抵抗とヒューマニズムの精神」です！**